

和歌山県立医科大学附属病院 神経精神科

当科の特徴

当科には日本精神神経医学会専門医が8名、精神保健指定医が8名在籍しており、指導体制が整っています。閉鎖病棟を有する治療環境のもとで、修正型電気けいれん療法、クロザピン治療、うつ病リワークプログラムなど専門性の高い治療を提供しており、反復磁気刺激装置最先端医療を経験できます。また他科と連携して認知症疾患医療センターや緩和ケアチームも運用しています。

連携している和歌山県立こころの医療センターでは精神科救急症例、アルコール症治療、医療観察法関連症例等を経験でき、紀南こころの医療センターでは地域の福祉サービスとの連携した地域密着型の精神科診療を、国保野上厚生総合病院やひだか病院では総合病院内での精神科臨床を、それぞれ特色ある研修施設で研修を行います。

卒後1、2年目の臨床研修（初期研修）修了後、3年目から6年目までは原則、新専門医制度に準拠した「和歌山県立医科大学神経精神科専門研修プログラム」に従って研修を行います。

基本領域の専門医取得後は臨床神経生理学会認定医（脳波

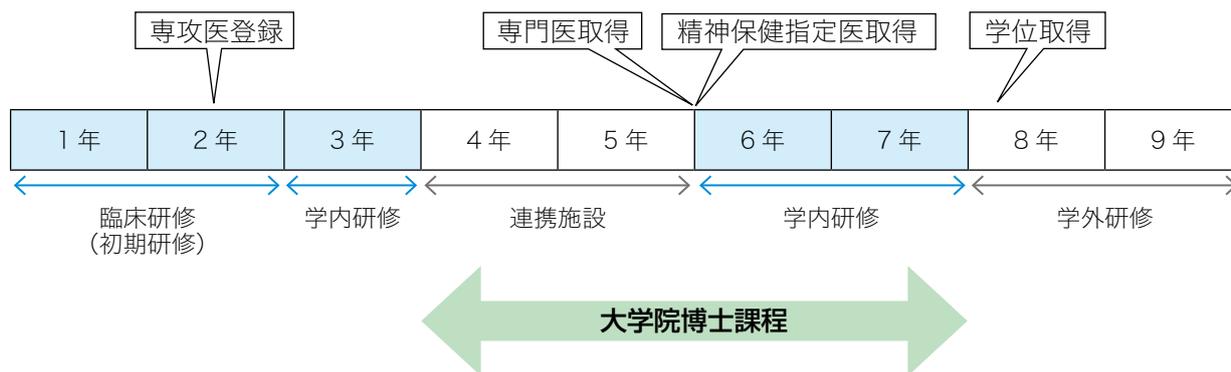
分野）、日本てんかん学会専門医、日本老年精神医学会専門医、日本児童青年精神医学会認定医、日本総合病院精神医学会専門医などのサブスペシャリティを目指して研修を続けていきます。なお、学位取得希望者は大学院に入学して臨床精神学分野での画像、電気生理、精神療法等の研究を行うことができ、学位を取得できます。



ローテーション例

一般枠コース

※ □ は学内研修



精神科入局後（3年目）は大学で研修します。臨床能力の取得（一般臨床を踏まえた精神科専門医を目指し先端の精神科臨床を実施します）を目指します。

指導のため、精神保健指定医、日本精神神経学会専門医も多数勤務し、十分な指導体制を整えています。卒後、4、5年目より、和歌山県内の公的基幹病院精神科において研修し、精神保健指定医、日本精神神経学会専門医を取得します。

大学院希望者は4年目より大学院に入学し学位を取得します。

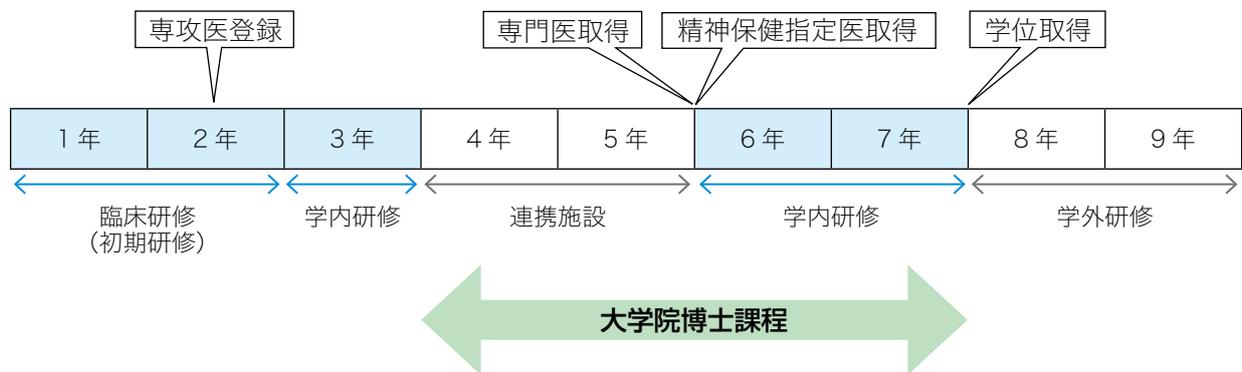
6、7年目は学内研修、8、9年目は希望に応じて別の公立病院、大学病院での勤務となります。また、卒後9年までの間にも、国内・海外留学が可能です。

いずれのコースを選択した場合でも、卒後10年目には大学スタッフとして勤務する予定です。

ローテーション例

県民医療枠コース

※ □ は学内研修



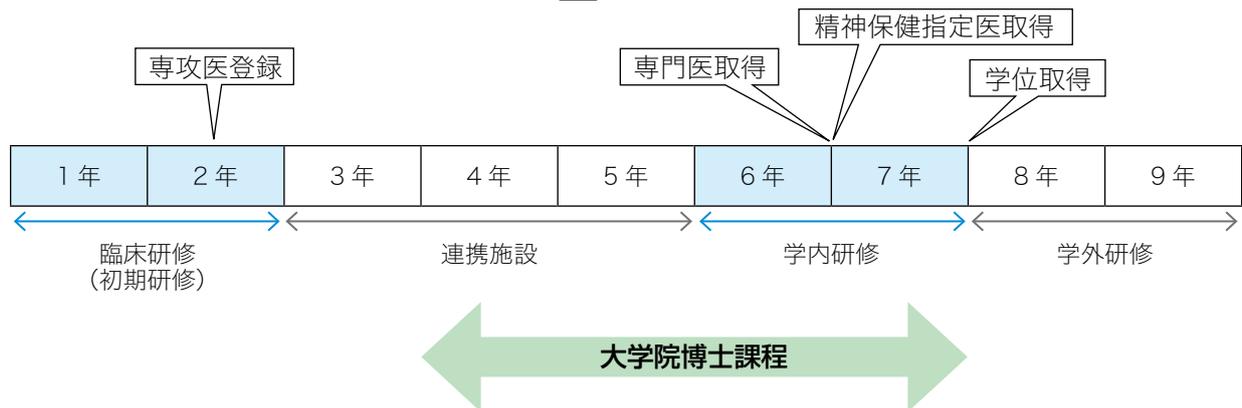
県民医療枠コースでは3年目は基幹施設である和歌山県立医科大学附属病院で研修を行います。4年目、5年目は地域中核病院である和歌山県立こころの医療センター等で研修し、基本領域専門医取得後は大学に戻って、研究や高度な医療に従事し、希望に応じ留学や大学院入学もできます。8、9年目には地域中核病院で後輩の指導を行いながら、大学で研究に従事します。大学病院や地域中核病院で中心となって活躍できる医師を目指します。

希望者は大学院に入学し、7～9年目には学位を取得する予定です。

ローテーション例

地域医療枠コース

※ □ は学内研修



精神科を選択する地域医療枠の方には、へき地での地域医療研修を暫定の地域(ひだか病院、和歌山県立こころの医療センター、野上厚生総合病院、紀南こころの医療センター)において精神科医として研修する(総合診療の代わりに)ことが認められています。

地域医療枠コースでは臨床研修(初期研修)の後、3年から5年目まではへき地医療拠点病院等で研修を行います。6、7年目には大学に戻ることによって高度な医療にも触れる機会があり、8、9年目にはへき地医療拠点病院等で後輩の指導にあたりながら精神科のみならず、総合医や家庭医としてのスキルを磨いていきます。

なお、精神科専門医、精神保健指定医は6～7年目に取得予定となっています。

希望者は大学院に入学し、7～9年目には学位を取得する予定です。

研修目標

当科での研修は以下の能力を身に付けることを目標としています。

1. 各ライフステージにおける特徴と課題、疾患について脳科学、精神病理学、神経薬理学、心理学など多彩な学術的知識を習得し、自ら実施できる能力を身に付ける。
2. 研修する方の希望に応じた研修により、さらに幅広く先進的な知識、技術を習得する。
3. 人間の普遍的な叡智とともに最新の精神科医療の技法を取得し、精神疾患の克服を目指す。

准教授からのメッセージ



辻 富基美 准教授

精神医学では、分子生物学から心理学というような多岐にわたる手法が用いられるので、それぞれの関心や特性に合致した専門領域が必ず見つかると思

います。一方で、精神医学の実践では、幅広い知識と柔軟な思考が常に要求されます。専門性を高めつつ、幅広い内容をバランスよく科学的に理解する姿勢が常に求められます。

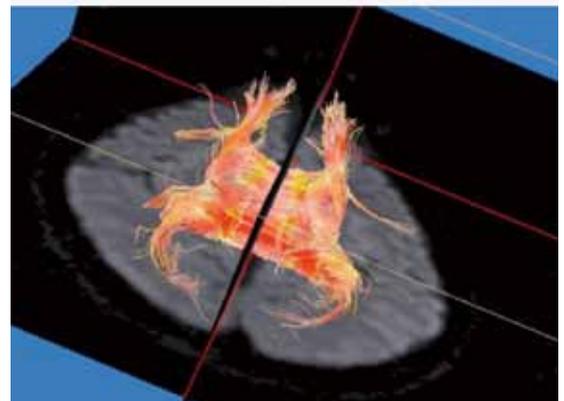
当科の研修では県内の様々な診療機関を経験でき、多様な患者さんに応じた診療技術・態度が習得できます。

精神科医師としての専門技能の習得とともに、医師としてともに成長していきましょう。

経験目標

1. 患者及び家族との面接、2. 疾患概念の病態の理解、3. 診断と治療計画、4. 補助検査法、5. 薬物・身体療法、6. 精神療法、7. 心理社会的療法など、8. 精神科救急、9. リエゾン・コンサルテーション精神医学、10. 法と精神医学、11. 災害精神医学、12. 医の倫理、13. 安全管理の各項目について、研修年次における目標を立て達成を目指す。

<http://www.wakayama-med.ac.jp/med/seishin/contents/seisinka/koukikensyu.html>

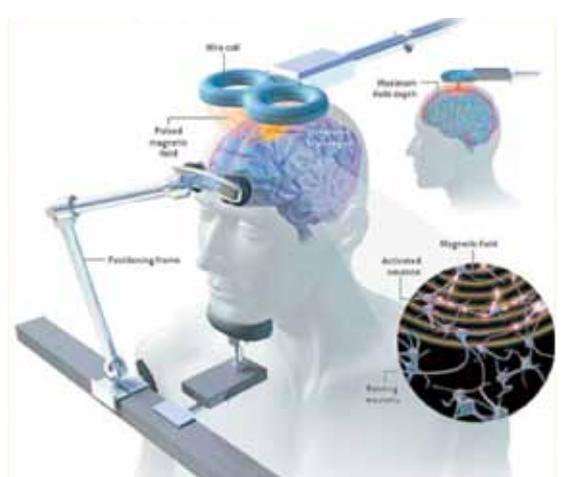


拡散テンソル画像



当院精神科 外来リワークプログラム MAY'S

院精神科 外来リワークプログラム MAY'S



反復経頭蓋次期刺激法

当科で取得可能な専門医と指導體制

| 研修施設 | 精神保健指定医 | 日本精神神経学会専門医指導医 |
|--------------------|---------|----------------|
| 和歌山県立医科大学附属病院神経精神科 | 8名 | 8名 |
| 和歌山県立こころの医療センター | 7名 | 6名 |
| 紀南こころの医療センター | 2名 | 2名 |
| 国保野上厚生総合病院 | 3名 | 1名 |
| ひだか病院 | 4名 | 0名 |

当教室の活動の原点と使命

当教室の活動の原点は、精神疾患の患者さんの苦悩に寄り添い、可能な限りその苦悩を和らげることにあります。そのためには、個々の精神科医は、その時々で最良と考えられる精神科医療を提供し続けること、すなわち、生涯にわたって最新の精神医学の知識と最良の技量の習得・更新をしながら医療を実践することが求められます。和歌山のすべての精神科医が、最良の精神科医療を継続して実践できるように支援することが、当教室の重要な使命の一つと考えています。

スタッフ

准教授1名、講師1名、助教5名、学内助教7名、臨床准教授3名、非常勤講師4名であり、大学での診療・研究・教育活動に従事しています。同門会である清新会会員は約100名で、大阪府下の一部を含む和歌山県全域の地域精神科医療の役割を担っています。

臨床上的特色

日本精神神経学会の認定研修施設として、プライマリーケアから高度な専門的医療サービスの提供に至る広範囲の精神科医療を実践しています。診療対象は精神疾患全般に及ぶが、統合失調症、気分障害（うつ病、躁うつ病など）、神経症性障害（パニック障害など）、心身症、脳器質性精神障害、認知症などが主な対象疾患です。専門的医療サービスとしては、全国的にも稀有な大学病院でのうつ病の復職支援プログラム、和歌山県下で唯一の修正型電気けいれん療法や難治性統合失調症に対するクロザリル治療を実践しています。